

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ちょっと世間風俗に属された伝説の〇〇〇が異世界にいったそうです。」

テーマ:「剣士で強いのに、実力を発揮で縫ない美少女」

キャラクター

35

ストーリー

30

テーマ(設定)

35

文章力

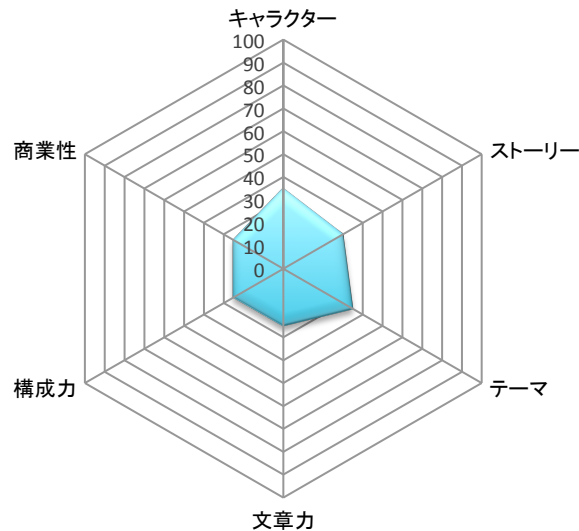
25

構成力

25

商業性

25



・見受けられる基礎的な問題点

- キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- 物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- 物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- 時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- 伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- 笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・とにかく勢いで押し切ろうという積極性は非常にライトノベルとして非常に好印象であった。
 ・しかし勢いあまりすぎて、誰が喋っているのか、今どこにいるのか等の状況が非常に読みとりにくい文体となっていた。幼女が多過ぎるとい
 要素も悪い意味でこの点を引き立ててしまっている。幼女はいつそ一人にして、その幼女との掛け合いの面白さに焦点を充てた方が、より分
 かり易いおもしろさが表現できたのではないと思われる。(今の状態であるとはちゃめちや過ぎて何が魅力なのか分からない)
 ・顔文字による表現という試みは非常に面白いが、何度も使ってしまうと度に「陳腐さ」を読んでいる側に与えてしまう可能性が高い。ここ
 ぞというタイミングで一回のみの使用がインパクト的にも良いと思われる。
 ・色々な意味でここまで勢いのある作品は初めて見た。恐らくこの無計画的な勢いでよく計画されたプロットを小説にすることができれば、恐
 らく誰よりも面白い作品が書けるようになるのではないかと感じる。他の方にはないものを持っているという意味では一番才能を感じる。

合計加点ポイント: 0

総得点: 175 / 600

B方式総合得点: 5104 点